

### 5-13. 地域として適切な情報を取得するために

災害が発生すると、人づてを含めた様々なところから多くの情報が発信されます。特に、発生直後の情報は、正確さがあいまいで、どうなっているのか、どうすればよいのかで右往左往してしまうことはあの東日本大震災でも経験しました。そして、今回のコロナ禍でも同じことが起きていて正確に判断して、適切な行動を起こすようにしなければなりませんでしたが、そのためにも基本としての知識は必要です。それに基づいて、どのような情報を取得すべきなのかを判断し、それを評価、行動、伝達するキーマンが必要となります。しかし、それには多くの発信、受信の環境における課題や問題点が多いことも確かです。情報は正しいことに加えて、必要なものでなければなりません。同時に、それが相手に必要であると信じてもらわないと意味がありません。また、非常時の情報がどのようなものか、真意を確認するというのも難しいし、信頼できる情報を入手することも容易ではありませんので、それを評価するには、様々な情報を比較検討しながら詰めていくという作業が必要なかもしれません。最近では、SNS時代でもあるので、様々な情報が飛び交いますし、もっともらしいものも多くあります。そのために、重要な確かなものが埋没してしまいかねない危険性もはらんでいるわけで、一人一人が情報を発信する責任を自覚する必要があるとともに受信する側がしっかりと分析して評価する力を蓄えるか、そのためのサポート人材を備えるのかということになると思います。

情報を入手するには、待ちではなく積極的に自ら求めていく必要があります。そうでないと、真偽のわからないあるいはあやふやな情報に振り回されることになるからです。そして、情報は分析評価されて、その必要性を認識し、地域の特性に合った、いわば役に立つものにしなければなりません。その基本が、地域知であります。地域が自然災害に対して、どこが弱みを知って、それに反応するところの情報を選択することをしなければ、情報の洪水に巻き込まれてしまいます。

また、災害情報で、最も重要なものに避難警報や警戒情報があります。これらの情報で大事なことは正確さはもちろんですが、地域にとっては、いつどうすればよいのかという、いわば応用力が求められているということです。地域によっては、これらの情報を待つ前に行動を起こす必要があるかもしれません。そのことは、平常時からリスクを認識しておくことが必要で、オオカミ少年になるかもしれませんが、忌避せずに継続することを徹底しておくべきことです。

災害が発生すると、まずは必要な情報を入手して、確実に伝達され、行動などの判断が行われるということで、地域としての手順を策定して模擬訓練をしておくことが欠かせません。

そして、これらが機能的に運用されるには、地域にキーマンがいるということが大事で、計画的に養成しておくという文化が求められています。そうでないと、右往左往するばかりで状況は刻々と変化するわけで追いつかないし、避難あるいは救助するチャンスを逃してしまって、大きな犠牲者を出すことにつながりかねません。